

(2) 学生による取組みについて

① アデレイド・スタディツアー（異文化圏における専門分野の学び）

本学では教育のグローバル化が緒に就いたばかりであり、留学生受入・派遣いずれも実績としては少ない状況にある。平成 26 年 10 月に開設した国際交流センターを介して専門分野における異文化交流にいち早く取組んでいる保健福祉学部のアデレイド・スタディツアー。平成 26 年度にその先陣として自主参加した栄養学科学学生の取組を学生自ら紹介し、今後に向けた成果等について報告を行う。

② 総社市インターンシップ（地域の学びと提言活動）

本学との連携交流協定に基づき平成 21 年度に開講された総社市インターンシップ。授業科目（夏季集中）ではあるが、平成 23 年度からは単なる市役所業務の体験に留まらず、その最終段階における成果発表において、学生から行政に向けた具体的な「政策提言」を行う取組が追加された。その結果、優秀な提言のなかからこれまで市の施策に活かされたケースも 4 件ある。平成 27 年度の成果について履修した学生の代表により報告を行う。

③ AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア（福祉の心の学び 1）

「人間尊重と福祉の増進」を建学理念とする本学と AMDA との連携交流協定に基づく、平成 27 年 9 月実施の東日本大震災復興支援ボランティア参加報告である。天災に殆ど見舞われることのない岡山県にあって、学生における様々な被災地ボランティア活動は、刮目すべきことの連続であったに違いない。日常と非常をともに体験することにより、非常時における福祉の精神の発揮ないしは涵養について、参加学生が学び取った内容について報告を行う。

④ チュッピー広場（福祉の心の学び 2）

本学の保健福祉推進センターが企画・主催する県大そうじゃ子育てカレッジにおいて、毎年学生が参加するチュッピー広場。平成 27 年 8 月には「OPU 子どものためのアートパフォーマンス」と題して未就学児と保護者 40 組を対象として劇・うた・ダンスなどを披露した。その成果と正課学修へのフィードバックについて報告を行う。

① アデレード・スタディツアー（異文化圏における専門分野の学び）

① 南オーストラリア州「保健福祉スタディツアー」

- ▶ 目的 外国語の習得や専門分野に関連した研修体験を通じて異文化への理解や多文化共存の重要性について学ぶ
終了後、専門職教育における学びのモチベーションの向上につなげる
- ▶ 期間 平成27年2月27日（金）～3月9日（月）
- ▶ 参加者 10名
- ▶ 内容 TAFE SAでの保健福祉に関する専門研修
(TAFE SA：南オーストラリア州立の職業教育・訓練機関)
小学校・高校の訪問・ホームステイ・市内視察など

平成27年1月 2月 3月 4月 … 11月

語学の勉強（スカイプ英語、英語村）
国際交流センター活用

食育活動など準備（小学校・高校・施設（研修先の担当者、英語村））

保健福祉スタディツアー

学内での報告会

岡山市内の小学校で食育活動

② スケジュール

日付	行程	宿泊先
① 2月27日（金）	岡山駅→関西空港	空港内ホテル
② 2月28日（土）	関西空港→香港空港	機中泊
③ 3月1日（日）	アデレード空港着 ホストファミリー宅へ移動	ホームステイ
④ 3月2日（月）	TAFE SAでの研修① オリエンテーション、 保健制度の実際、職場の健康と安全	ホームステイ
⑤ 3月3日（火）	TAFE SAでの研修② セントラルマーケット 高齢者福祉施設（The House Of St Hilariion）実践①	ホームステイ
⑥ 3月4日（水）	TAFE SAでの研修③ 高齢者向け宅配弁当製造会社 在宅自立支援センター、専門英語	ホームステイ
⑦ 3月5日（木）	高校訪問（Norwood Morialta High School）実践②	ホームステイ
⑧ 3月6日（金）	小学校訪問（Coromavdal Valley Primary School）実践③	ホームステイ
⑨ 3月7日（土）	ホームステイ先の家族との交流	ホームステイ
⑩ 3月8日（日）	アデレード空港→香港空港→関西空港	空港内ホテル
⑪ 3月9日（月）	関西空港→岡山駅	

③ TAFE SA

食育活動など準備（小学校・高校・施設（研修先の担当者、英語村））

保健福祉スタディツアー

学内での報告会

岡山市内の小学校で食育活動

④ 高齢者施設の見学

高齢者福祉施設（The House Of St Hilariion）実践①

実践②

実践③

⑤

TAFE SAでの学び

南オーストラリア州における福祉制度や在宅介護を支援するシステム、移民文化に配慮した高齢者福祉施設の見学などを通じて移民の多い国や個人の尊厳を重視した福祉のあり方などを学んだ。

マーケット見学やホームステイ等を通じて、オーストラリアの抱える健康問題と食生活の実際を学んだ。



外国語のスキルの向上
専門分野を通じての異文化理解の促進

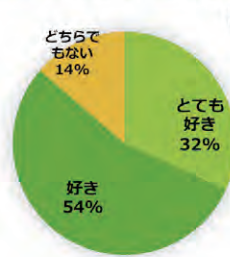
⑥



小学校での食育活動

⑦

【授業をどう評価しますか？（7年生）】



《感想》

- 楽しかった、面白かった
- 日本の大学生たちと会えてよかった
- 外国からきた自分たちと違う人たちの交流が良かった
- ゲームができたから
- 折り紙がもらえたから
- 日本の食べ物の名前を勉強できた
- 大学生の英語は上手だった
- ハンカチ落としは楽しかったけど、ピンゴは楽しなかった

【この授業を通して、または授業の後で…】

健康な食事が分かった	15名
赤・オレンジ・緑の3つの違う食べ物を意識するようになった	14名
もっと日本の言語に興味を持った	4名
もっと日本の言語に自信がついた	0名
もっと日本の文化に興味を持った	8名
前よりも注意して食べ物を選ぶようになった	7名
何も学ばなかった	0名

小学校での評価

⑧

小学校での学び

学校の概要の説明を受けるとともに、LunchTimeを共にすることで豪州の子供たちの食生活の実態に触れた。また現在日本ではまだあまり取り入れられていない国際バカロレア IB 教育プログラムや豪州での生活等について日本語教諭の山本氏から講話をうけ、更に全校集会での IB 活動に関する児童の成果報告発表を視察することで、日本の教育制度や教育方法と比較し多様な学び方の可能性に気付く機会となった。更に2つのクラスで日本語の授業時間にフードガイドに基づく食育の活動を実施し、児童と交流を図った。



食育活動においてこれまで身につけた
栄養学の専門知識やスキルの活用

⑨

日本語の授業



①お箸の使い方



②お箸のタブーな使い方



③お箸を使った豆つかみゲーム



高校での食育活動

⑩

【目的】

「保健福祉スタディツアー」に参加した学生が、帰国後学びを活かす場を提供し、更に同じ学科の同級生や次に参加を予定している下級生とともに実践活動を行うことで、グローバルな食育活動の推進を図ること。



石井小での食育活動

⑪

高校での学び

学校の概要の説明を受けるとともに休憩時間の校内の視察や日本語教諭芳賀氏の多国籍からの留学生と共に学ぶ豪州の教育制度や豪州での生活体験の講話から多文化共生の実態やグローバルに活躍することの可能性を理解した。

また日本語クラスにおいては「はし」をテーマに日本文化の紹介をおこなう活動を実施し、生徒と交流を図った。



食育活動においてこれまで身につけた
栄養学の専門知識やスキルの活用

⑫

研修全体でのまとめ

・語学力の育成について

語学に対する考え方が変わった参加者も多く、コミュニケーションツールの一つとしての認識を新たに持つきっかけとなった。

・異文化交流・理解について

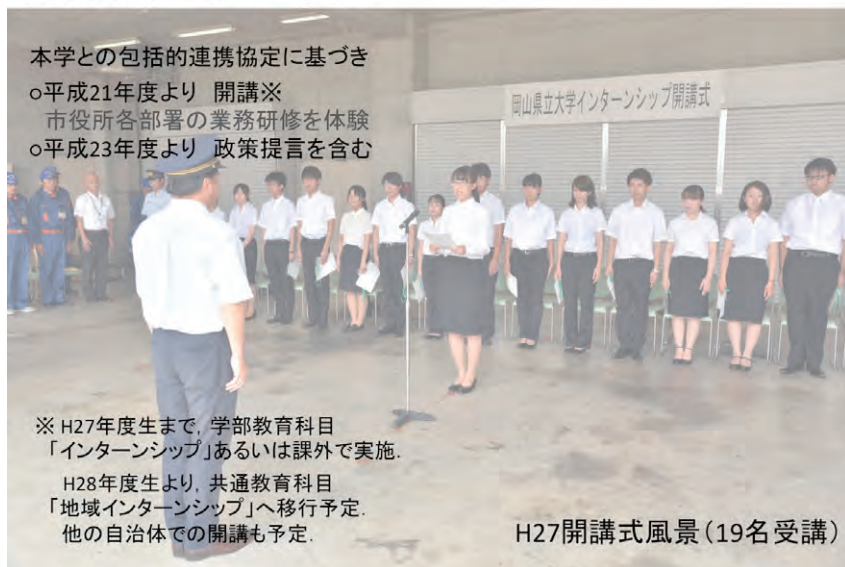
オーストラリアの中でも原住民アボリジニーへの尊敬の念が広がっている事や、日本の文化との違いにも触れ、多方面からの理解につながった。また、異文化に触れることで、自国の文化にも興味を抱くきっかけとなった。

・研修を通じて

「今回の経験を今後どう生かしていくかについて」、各参加者の専門職である管理栄養士・栄養教諭・看護師等における深い理解へとつながり、今後の学生生活へのモチベーションに寄与していくことが期待される。

② 総社市インターンシップ（地域の学びと提言活動）

① 総社市インターンシップ



本学との包括的連携協定に基づき
 ○平成21年度より 開講※
 市役所各部署の業務研修を体験
 ○平成23年度より 政策提言を含む

※ H27年度生まで、学部教育科目
 「インターンシップ」あるいは課外で実施。
 H28年度生より、共通教育科目
 「地域インターンシップ」へ移行予定。
 他の自治体での開講も予定。

H27開講式風景（19名受講）

② 政策提言（26年度までの優秀賞及び実行プラン）

年度	政策提言テーマ	概要	実行した政策	学部・学科
23	安心・安全な総社市のための防災計画	NPO法人等を町内会・市・消防団・学生で構成し、防災会議やセミナーを定期的に開催することで、継続的な取り組みとともに意識の高揚を目指す。	防災カルタの作成	デザイン学部生
23	高齢化を踏まえた多文化共生社会	日本語教室で学ぶテーマに介護を取り上げたり、外国人向け葬祭・介護・医療などについてのハンドブック等を作成し、制度理解を深めてもらう。	多言語医療ガイドブックの作成	デザイン学部生
23	地元の食材に親しみを持つ人を育てる	小・中学校に通う子ども達が市内産の食材を使って調理実習を行ったりして、もっと地元の食材に親しみをもってもらう。		保健福祉学部生
24	食で繋がる総社市	地・食への認知度を向上させるため、総社市が地産地消に対して積極的であることをアピールしていく。	地・食べ市場の展開（ニシナ・プラザ・マルナカなど）	情報工学部生
24	農業を通して総社市をアピールする	中・高・大学生を対象にした食・農体験の実施 県立大学祭内で総社産の作物や野菜の販売を行う朝市の実施		情報工学部生
25	総社市早見カレンダー	総社市の月めくりカレンダーを作成し、入学生に配布したり、ホームページにカレンダーを掲示するなどして、総社市の特産品・イベントの認知度の向上を図る。		情報工学部生
26	総社市に住む人が気軽に安心して外出できるような街づくり	障がい者やハンディキャップを抱えた人たちにとって一般的なものより詳細な情報が載っている「総社市バリアフリーマップ」は有効性があると考える。この冊子を入手するには市役所へ訪れる必要がある。これを改善するために、冊子に加えて、市のホームページでも情報を公開する政策を実行する。	ホームページで公開	デザイン学部生

③ ●環境課の取り組み

業務研修

補助金等

ごみ減量化推進団体報奨金交付制度（廃品回収）等

環境保全

農薬使用について、大気汚染防止推進月間 等

自然保護・環境学習

自然保護への取り組み、鬼城山外来植物一掃大行動 等

ごみ・し尿・リサイクル

雑がみリサイクル、環境出前スクール 等

省エネルギー・新エネルギー

住宅用太陽光発電システム設置費補助金、クールビズ 等

犬猫など

犬猫の飼育登記、市道の死骸回収 等

斎場・墓地

斎場・墓地の管理

●インターンシップでの活動

環境学習の一つである「自然学校」の準備及び同行

④ 自然学校における自然学習及び自活行為の拡充について

政策提言

現状

基本的な食事の準備は職員が行っている。

改善案

食事の準備を児童に任せ、職員はこれを見守る。

見込まれる効用

- ・達成感を味わう
- ・児童間の連帯感を促す
- ・自立心を育て、自発的に考えることを学ぶ
- ・家庭でのお手伝いにつながる



⑤

まとめ

インターンシップで学んだこと

- ・市役所が安心・安全な暮らしを支えているということ。
- ・個性と状況に即した関わり方が必要であること。



⑥

業務研修

●秘書室

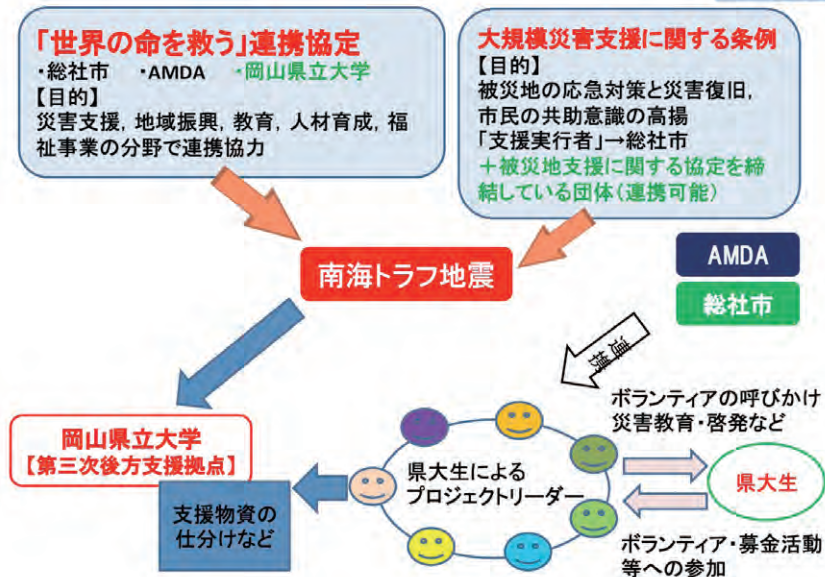
- ・市長随行(大卒新規就職面接会, 記者会見, 第5回総社観光大学入学式, ミネストローネ販売イベントほか)
- ・市長と各課の協議に同席(政策調整課行政報告, 財政課玄関改修, 秘書室日程ほか)
- ・市長が出席する会議への同席(庁議, 宮崎県国保連合会国保事業視察講演, 総社観光大学市長講義ほか)

●地域応援課

- ・道路パトロール(欠陥がないかなど)
- ・道路の舗装
- ・欠陥のある側溝蓋交換
- ・倒木の伐採, 撤去

⑦

政策提言



⑧

まとめ

インターンシップで学んだこと

- ・秘書室では市長の随行が主な活動であり, 市長の講義や講演に同席させていただくことにより総社市の行っている政策の背景や成果を詳しく知ることができた。それだけでなく, 実行に移すことが困難な政策に対し前向きに勇気をもってチャレンジする総社市の姿勢を学んだ。
- ・地域応援課では, 道路の穴うめや側溝蓋の取りかえを職員のみで行うのは大変でしたが, やりがいのある仕事であり達成感をその場で得ることができた。自分の知らない所で市の役員の方がバックアップしてくださっていることがとてもありがたいことだと思った。
- ・本学と総社市との連携交流協定によるインターンシップは行政と密接に関わることができる良い機会であるのでこれからもこの協定を生かして積極的に総社市インターンシップに参加してほしいです。

⑨

業務研修

● 市政情報課

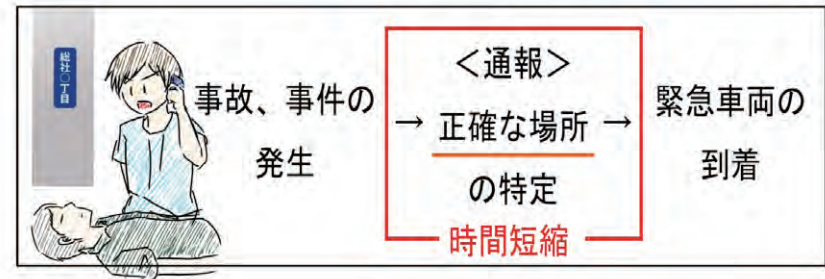
- 取材随行
- 公式SNSの投稿原稿作成
- データの加工



⑩

政策提言

● 住所表記板の設置



⑪

まとめ

インターンシップで学んだこと

- 大学で学んできたことが活かせ、身につけていることが実感できた。
- 将来像を具体的に頭に描くことができるようになった。
- 反省点として受け身な姿勢で仕事をしていた。
- 苦手な分野に対しても前向きな姿勢で取り組む必要。

⑫

修了証授与風景



ご清聴ありがとうございました。

③ AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア（福祉の心の学び1）



② 趣旨・経緯

- 岡山経済学友会が主催する東日本大震災復興ボランティアに大学コンソーシアムの枠組みで平成23年度から毎年、岡山県立大学の学生が参加。
- 一方、大学ごとの派遣人数の割り当てにより、希望する学生が全員は参加できない状況。

岡山県立大学

災害派遣
地域貢献
教育
人材育成

総社市
福祉

▶▶▶▶

平成27年度からAMDAの協力のもと地域貢献とキャリア形成を目的とした本学独自の東日本大震災復興支援ボランティア活動を開催

連携協定の締結[平成25年度]

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

③ スケジュール

実施日：2015年9月12日（土）～16日（水）
参加者：13名

9月15日
大槌町
美化活動

9月14日
大槌町
町内視察・研修

9月14日
陸前高田市、大船渡市、釜石市
奇跡の一本松 など車中視察

9月14日
気仙沼市
市内視察

9月13日
南三陸町
畑作業・美化活動・町内視察・キャリア研修

9月16日
岡山到着

9月12日
岡山出発

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

④ 畑作業

宮城県南三陸町
「南三陸農工房」にて畑作業

つながり あたたかさ 恩送り

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑤

美化活動

南三陸町 「さんさん商店街」にて美化活動
大槌町 大槌稻荷神社にて清掃活動



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑥

視察

南三陸町 ◇旧戸倉小学校 ◇防災対策庁舎
気仙沼市 ◇鎮魂之碑



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑦

視察

気仙沼市 ◇鎮魂之碑 ◇展望台から
大槌町 ◇旧大槌町役場 ◇高台から

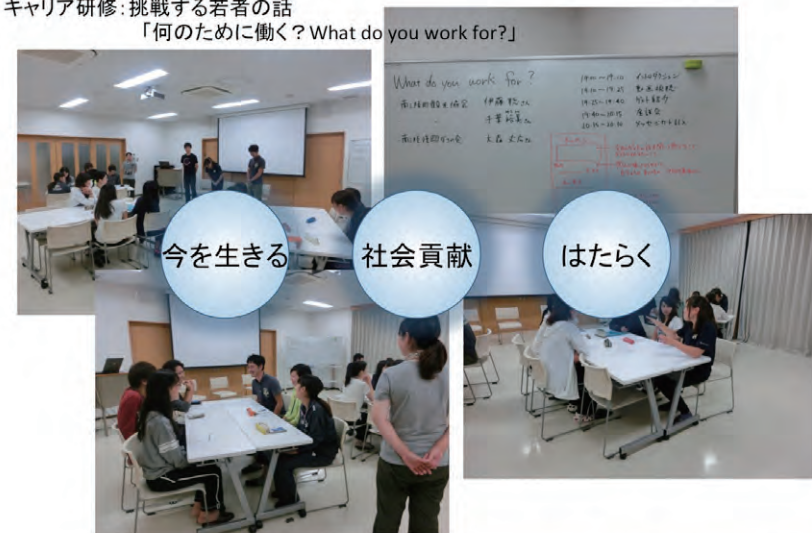


AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑧

研修

キャリア研修: 挑戦する若者の話
「何のために働く? What do you work for?」



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑨

研修

社会福祉法人堤福祉社会勤務の方
 「東日本大震災の渦中、社会福祉法人堤福祉社会がどう機能し、職員はどう動いたか」
 大槌復興推進隊勤務の方(地域おこし担当)
 「地域おこしの業務と課題」



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑩

とおして..



AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑪

そして..

被災地の現状を 被災者の様子を 多くの人に伝えたい



ポスターを作成、食堂に掲示



後援会だよりにて体験談を掲載
 最後に

- ・被災地の現状を自らの目で直接見ること
- ・防災意識の強化・共有
- ・ボランティアのかたちの変容

AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

⑫



宮城県南三陸町「さんさん商店街」にて
AMDA 東日本大震災復興支援ボランティア活動

④ チュッピー広場（福祉の心の学び2）

①

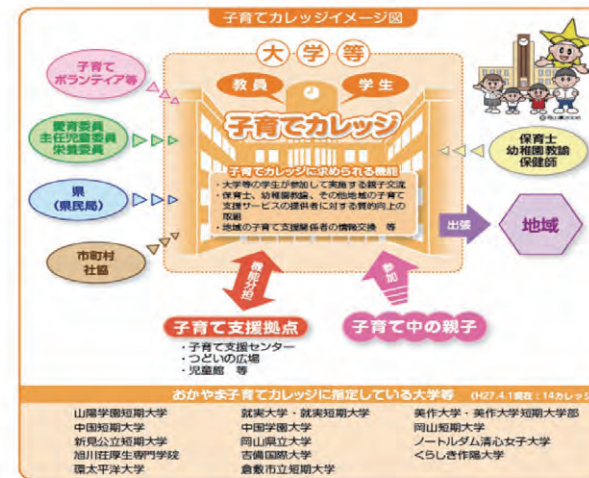


チュッピー広場

保健福祉学科 子ども学専攻3年

1

②



2

③

県大そうじゃ子育てカレッジ

岡山県立大学がもつ専門知識や施設などを活用し、「チュッピー広場」をはじめ、子育て支援者向けの研修会や情報交換会などの開催を含めた事業を実施

【内容】

- 〔1〕 大学の学生が参加して実施する親子交流など
- 〔2〕 地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取り組み
- 〔3〕 子育てや子育て支援に関する相談の実施
- 〔4〕 子育てや子育て支援に関する情報発信
- 〔5〕 子育て支援に関するボランティア・NPO等の活動への支援
- 〔6〕 地域の子育て支援関係者の情報交換
- 〔7〕 その他調査事業など

3

④

チュッピー広場の概要

- ▶ 毎週1回、学生も参加する親子交流広場事業

民・官・学の協働事業

(平成22年3月30日設立)

- ▶ 平成26年度の実績
- 開催日数 59日
- 参加者数 615組

- ▶ 特長
- 学生の参画・協働授業・フリープログラム



4

⑤

学生の参画

- ▶ 1年生
12月 親子で楽しむクリスマス会
(保育内容 I 「人間関係」)
- ▶ 2年生
6月 おはなしのかい (国語)
8月 子どものためのアートパフォーマンス
(保育内容 I 「音楽表現A」)
- ▶ 3年生
8月 子どものためのアートパフォーマンス (体育 I)



5

⑥

子どものためのアートパフォーマンス

- ▶ 2年生 合奏
- ▶ 3年生 ダンス
- ▶ 4年生 劇



6

⑦

親子で楽しむクリスマス会

- ▶ 手遊び、歌、パネルシアター、合奏
- ▶ サンタクロースに変装した学生から
手作りおもちゃをプレゼント!



7



⑧

おはなしのかい

- ▶ 手遊び、絵本、紙芝居



8

⑨

チュッピー広場を通しての学び

- ▶ 子どもの遊びの興味や発達を知ることができる
- ▶ 子どもだけでなく保護者との交流機会となる
- ▶ 子育て支援拠点の支援者の関わり方を観察を通して学ぶことができる
- ▶ 協働授業を通して手遊び歌や絵本などの教材研究が可能となる
- ▶ 保育者に求められる実践力の醸成がはかれる

9

⑩

他学部・他科学生の参画

- ▶ 保健福祉学部 栄養学科
公衆栄養学実習Ⅰ
子育て支援事業の現状と母子の実態について学ぶ
- ▶ デザイン学部
学生相談室外壁面の着彩への親子参加



10

⑪

その他の取り組み

- ▶ 子育て支援関係者たちへの研修
保育ステップアップ講座、子どもと保育
研究会、子育て支援ネットワーク研修会
- ▶ 親子で楽しむ音楽会
- ▶ 保護者対象のワークショップ
スヌーズレン歌声広場、子育て中の
ママのためのダンス、ノーバディーズ
パーフェクト



11

⑫

今後の課題

- ▶ チュッピー広場と授業時間の重複があり参加機会が限定される
- ▶ チュッピー広場以外の事業への学生の積極的参加
- ▶ チュッピー広場の取組の周知を学内外にはかる
- ▶ 他大学のカレッジとの情報交換

12